



## ～マスク常時着用を緩和します～

城東病院では7月1日から「院内でのマスク常時着用」を職員・患者様・利用者様・面会者の判断に任せることにしました。

感染対策の面から考えると「会話するときは飛沫を減らすためにマスクをつける」ことが重要です。特に、室内で近くの距離で誰かと会話するときは、お互いにマスクをつけるのが安全です。

一方で、1人で机に向かい黙って仕事をしていればマスクを外していても感染のリスクは低いと考えます。厳密には、ウイルスは呼気中にも飛沫やエアロゾルにわずかに含まれていますが、新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いている状況では感染のリスクは低いと考えます。

当院では、「発熱や咳などの症状にかかわらず全ての人が常にマスクを着用」にしていますが、感染流行状況や昨今の状況変化等を踏まえて、常時マスク着用を緩和することにしました。

当院のマスク使用基準を変更いたしましたので、お知らせいたします。

### 1. 無症状者のマスク着用は個人の判断とします。

### 2. マスク着用をしていただく場合

- ①ご自身に咳・くしゃみ、咽頭痛、鼻水などの症状がある場合
- ②面会する患者・利用者様に咳・くしゃみ・鼻水などの症状がある場合
- ③面会する患者・利用者様が感染症にかかった場合に、重症化リスクの高い方

### 3. 咳エチケットの実施

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症など、咳やくしゃみの飛沫により感染する感染症は数多くあります。

「咳エチケット」は、これらの感染症を他人に感染させないために、個人が咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえることです



**新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症の流行状況に応じて院内全体でのマスクの着用を再開します**

## マスク着用が個人の判断になっても、変わらない感染予防の原則

### 1. 飛沫を浴びやすい場面でのマスクやフェイスシールド着用

吸引・口腔ケア・食事介助・咳をしている又は大声を出している患者様・利用者様の対応

\*飛沫とは、会話や咳、くしゃみの際に、口や鼻から放出される微粒子が、近くの正面にいる人の目や鼻、口に接触すると、飛沫のなかの病原体が粘膜の細胞に侵入して感染が起こります。

### 2. 換気・手指衛生の励行の継続

標準予防策とは、知られている感染の有無に関係なく、いつでも、どこでも、誰にでも、実践する必要がある基本的な感染対策です。人が見えても、見ていなくても実践しましょう。